

皆さんはホームレスの方を目にしたことがありますか。そして、その方たちのことをどのように思っていますか。

日本では、街中の路上に、ほとんどホームレスの方を見かけることはありません。私が、父の転勤のため、中一でイタリアに渡ってからは、路上でよくホームレスの方を見かけるようになりました。街で見かけても親からは、「あんまりじろじろ見ないの。」と言われていたため、当時の私は、ホームレスになんとか不気味で少し怖いイメージを持っていました。そんな私の彼らに対するイメージ、そして考え方が変わったのは、今年の夏休みの体験がきっかけです。

七月末から、私は昨年住んでいたミラノに、行きました。そして街中を歩いている時、以前のように、ホームレスの方を何人も見かけては目を逸らしていました。ある日、妹と街を散策していると、ホームレスの方が路上に座っているを見つけました。でもいつも見る光景と違っていたことが一つ、その人は一人ではなく、膝に小さな子供を抱えていました。その時、その方と一瞬、目が合ったのです。その目は、他のホームレスや物乞いをする人とは全く違っていました。座っているだけでもすごく苦しそうで弱々しく、前を通る人にどうか助けてくださいと嘆願しているようでした。イタリアでは、物乞いをする人たちの中には、元気なのに、わざと汚い服を着て、ホームレスを演じ、お金を要求してくる人も沢山いると聞いたことがありました。また、父がアメリカでホームレスの方々への炊き出しを手伝ったときには、せっかくの炊き出しなのに好き嫌いを言って、わがままな人が多かったとも聞きました。しかし、私が路上で見かけたその人は、演じているわけではなく本当に苦しそうでした。

妹と私は過去に一度も路上のホームレスの方に寄付をしたことがありませんでした。ただこの人は、本当に死んでしまうのではないかと思うほど貧弱で、すぐに助けてあげたいと感じました。少しだけでも力になれないかと思い、自分のお小遣いから二十セントだけ寄付をしました。その後、正面に回って膝に抱えられていた子を見た時、思わずはっと息を呑んでしまいました。膝に抱えられていた人は子供ではなく、見た目が五十歳くらいの大人の女性だったのです。後ろ姿だけでは十歳にも満たない小さな子供の様に見えました。身体は痩せ細っていて、見ている胸が苦しくなりました。その時私が出来たことは、僅かなお金を缶に入れることだけでした。

私たちは、例えばボールペンを買うとき、百円か百十円かという値段の差より、柄や気に入ったものを基準に選ぶことが多いと思います。同じ十円でも感じる価値には大きな差があります。一億人の人たちが一人一円を寄付することで一億円の寄付が出来ます。小さな一歩が大きくなることの重要性を、夏の経験で改めて、考えさせられました。「私だけが一円寄付したところで何も変わらない」という考えを捨て、自分の出来ることを考えて、世の中の弱い立場の人の手助けになればと思いました。

優しさや思いやり、一人一人の小さな努力で救われる命は沢山あります。何らかの状況において不遇な人たちを助けることが出来たらと思います。私は、今日も、こうして健康に生きていられることが当たり前ではないことを胸に刻み、日々生きていられることに感謝しながら生活していきたいです。